



# 川端龍子 RYUSHI KAWABATA

## 川端龍子 KAWABATARYUSHI

### 川端龍子 KAWABATA RYUSHI

#### 川端龍子 KAWABATA RYUSHI

##### KAWABATARYUSHI

川端龍子[かわばた・りゅうし、本名昇太郎。1885(明治18)年 和歌山県出身—1966(昭和41)年 東京都没]は、横山大観・川合玉堂とともに近代日本画の三巨匠のひとりに数えられる画家です。最初、洋画家として活動をはじめましたが、渡米して日本の古美術と公共建築の壁画にふれたことをきっかけに日本画家に転向。「会場芸術」の名のもと、従来の「床の間芸術」を脱した規格外のスケールと大胆で豪快な表現の日本画を、次々と発表していきます。近代的な空間にふさわしい大画面によって大衆の心を動かし、画壇に旋風を巻き起こした龍子は、在野の日本画団体・青龍社を設立し、その旗手として後進を育てつつ自身も精力的に制作を続け、1959(昭和34)年には文化勲章を受章しました。その革新的な作風は生誕140年をまもなく迎える今もなお魅力に満ちており、とりわけ画家の息遣いを感じられるようなダイナミックな筆さばきや想像をこえるほどの大画面は、私たちの心をとらえてやみません。本展は、80年という生涯を通して龍子がどのような日本画を追い求めていったのか、その画業全体を探ろうとするものです。初期の洋画、その後の日本画の屏風や大作、スケッチ等により、明治・大正・昭和という激動の時代において、異彩を放った龍子の魅力に迫ります。



表 = 《草の美》(部分) 1931(昭和6)年  
裏 = 1 《草の実》1931(昭和6)年  
2 《龍巻》1933(昭和8)年 ※後期展示予定  
3 《爆弾散華》1945(昭和20)年  
4 《夢》1951(昭和26)年  
5 《怒る富士》1944(昭和19)年  
6 《香炉峰》1939(昭和14)年 ※前期展示予定  
7 《龍子垣》1961(昭和36)年 ※後期展示予定  
※全て、大田区立龍子記念館蔵

**関連行事** ■ 講演会「日本画家・川端龍子の会場芸術」  
4月13日(土)午後2時から  
講師 = 木村拓也氏(大田区立龍子記念館学芸員)  
会場 = 映像ホール  
定員 = 50名(先着順 開場午後1時30分)  
※申し込み不要 ※聴講無料  
※満席になり次第、入場を制限させていただく場合があります。

■ ギャラリートーク  
3月20日(水・祝)、4月27日(土) 各日午後2時から  
講師 = 当館学芸員  
会場 = 展示室1・2  
※申し込み不要 ※聴講無料  
※当日有効の本展観覧券が必要ですよ。

**観覧料** 【一般】900(700)円 【大学生】450(350)円 【前売一般】700円

※( )内は20人以上の団体料金。※この料金で常設展も観覧できます。  
※小・中学生・高校生及びこれらに準ずる方、各種障がい者手帳をお持ちの方の観覧は無料です。  
※大学生券に該当する人の詳細については、ウェブサイト等でご確認ください。

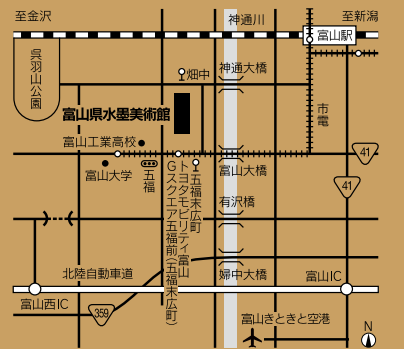
【前売券販売所】3月14日(木)まで販売  
富山県水墨美術館・富山県美術館・アーツナビ(富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール・新川文化ホール)  
※ただし2月5日～3月14日の期間中、富山県水墨美術館は休館しています。

【常設展示】近代水墨画の系譜/下保昭作品室 ※企画展の観覧券でご覧いただけます。

【館内施設】茶室「墨光庵」(立礼席、薄茶とお菓子) ※初日および土日祝日の午前11時～午後4時に営業。  
ミュージアムショップ「風花」

【次回企画】没後100年 富岡鉄斎 2024年7月12日(金)～9月4日(水)

【交通のご案内】  
【富山駅南口から】■市内電車(大学前行き)「トヨタモビリティ富山Gスクエア五福前(五福末広町)」下車、徒歩約10分 ■地鉄バス③乗場から小杉・高岡方面行「五福末広町」下車、徒歩約10分/⑦乗場から四方・新桜谷町・石坂・北代循環行「畑中」下車、徒歩約10分 ■タクシー約10分  
【富山空港から】タクシー約25分 【北陸自動車道】富山IC、富山西ICから自動車約20分 【無料駐車場】乗用車165台、バス7台



〈富山県水墨美術館〉  
〒930-0887 富山市五福777  
Tel.076-431-3719 Fax.076-431-3720  
https://www.pref.toyama.jp/1738/